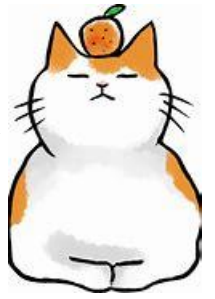


# わんにゃん通信

12月号

担当: 田中



## 今回は犬の中耳炎についてです。

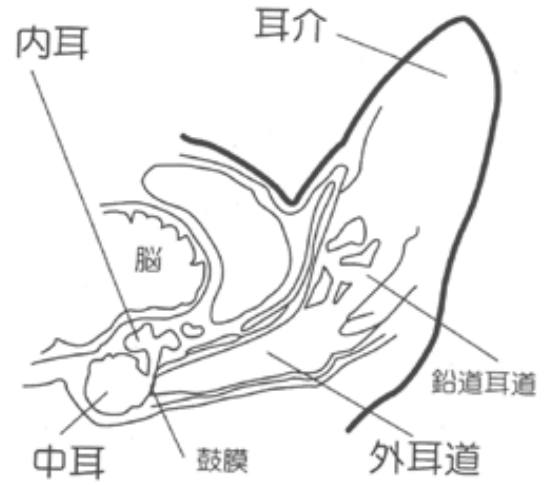
中耳とは鼓膜の奥にある共鳴箱です。

外耳炎がひどくなって中耳に炎症が起こる場合が多く、わんちゃんの場合、慢性の外耳炎が原因になっている事がほとんどです。

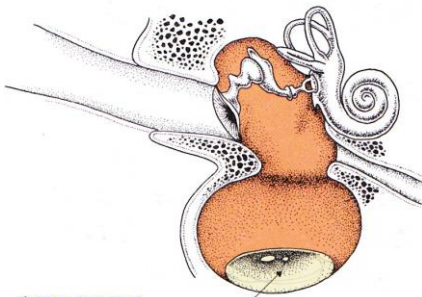
### 【症状】

まず、耳汁が出ます。痛みを伴う事が多く、耳をかきながら鳴いたり、耳を振りながら鳴いたりもします。

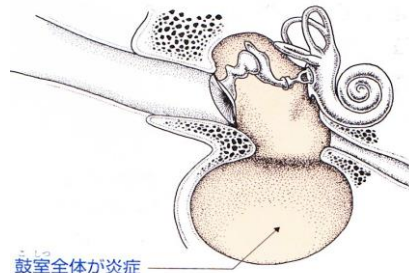
重症になると、あごの下から膿が出たり、フラフラして上手く歩けなかったりする事もある非常に治りにくい疾患です。



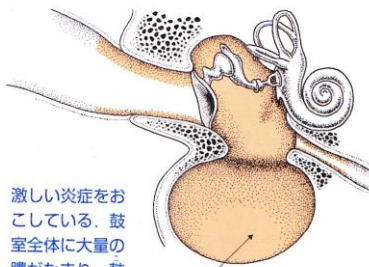
### 中耳炎の種類



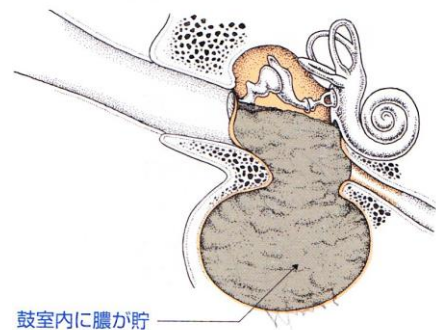
少量の炎症性分泌物がたまっている



鼓室全体が炎症をおこし発赤している



激しい炎症をおこしている。鼓室全体に大量の膿がたまり、鼓膜を内側から圧迫している。鼓膜穿孔してしまうこともある



鼓室内に膿が貯留している

外耳炎が慢性化するといつの間にか鼓膜からばい菌が進入し中耳炎になります。中耳炎が見つかった時にはその中耳炎も慢性化してる事がほとんどです。慢性化した中耳炎は治療が長期にわたることが多いです。

中耳炎になる場合、外耳炎が原因の場合が多いので、外耳炎を上手くコントロールするのが一番の予防です。

外耳炎とは、鼓膜と耳の入り口間の皮膚炎です。炎症が起きるほとんどの原因は、アレルギーで、そこに耳垢がたまり二次的に感染をおこしたりします。



そのためには、定期的な外耳炎の管理が必要です。詳しくは獣医師に相談しましょう。

### 倉重獣医師のコラム

上記に記載されているように、外耳炎が悪化や慢性化することで中耳炎になりやすくなります。その場合は外耳炎によくみられる痒みや独特の臭い、耳が赤いなどの症状にプラスして、

- ・頭を頻繁に振る
- ・耳がよく聞こえない
- ・耳を触ると異常に痛がる
- ・歩き方がおかしい（歩様異常）
- ・頭を決まった方向にいつも傾けている（斜頸）

などの症状が出る場合があります。通常の外耳炎よりも治りにくいため、治療期間が長くなる場合が多いです。治療は家庭での点耳だけでなく、抗生剤や抗炎症剤の内服、病院での耳道洗浄などが必要となります。外耳炎の早めの発見や治療、予防をすることで、中耳炎を防ぎましょう。



## 重要なお知らせ



2021年1月より毎週水曜日の午後は手術時間になります。

そのため水曜日の診療は午前のみとさせていただきます。

皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。